



波斯匿王女金剛品第二
 知是我聞一時係在舍衛國祇樹
 給孤獨園今時波斯匿王冢大夫
 人名曰摩利時生一女守波闍闍
 音言金剛其女面雅性為聰慧肌
 體秀潤猶如肥皮膚頭髮強壯物
 如馬尾王觀此女元一喜心便物
 內宮勸意守護勿令外人得見
 之也所以者何此女雖能不以
 人然未利夫人而生此弊礙



萬丈標葉旭海
 康起未絢槐拂
 枝紅誰知符到
 姑蘇岬依舊禪
 林識祖風
 悔是翰光不露



大和制算卷第三
 秋也 陽也
 うらやまのりやうりやうり
 うらやまのりやうりやうり
 うらやまのりやうりやうり

大和制算卷第三
 秋也 陽也
 うらやまのりやうりやうり
 うらやまのりやうりやうり
 うらやまのりやうりやうり



すべて公開。



東京国立博物館創立150年記念 特別展

国宝

東京国立博物館のすべて

150TH ANNIVERSARY SPECIAL EXHIBITION
 TOKYO NATIONAL MUSEUM: ITS HISTORY AND NATIONAL TREASURES

2022 10.18 (火) - 12.11 (日) **TNM** 東京国立博物館 [平成館] 1. 野公園
 TOKYO NATIONAL MUSEUM (Ueno Park)

PRESS RELEASE
 プレスリリース



PURPOSE OF THE EXHIBITION

東京国立博物館(東博)は、令和4年(2022)、創立150年を迎えました。明治5年(1872)の発足以来、日本でもっとも長い歴史をもつ博物館として、かけがえのない文化財の保存と公開という命題を両立させながら、日本の文化を未来へ、そして世界へ伝えていく役割を果たしてきました。

本展は、この大きな節目を記念して開催するものです。

150年の間に積み重ねられた約12万件という膨大な所蔵品の中から、国宝89件すべてを含む名品と、明治から令和にいたる150年の歩みを物語る関連資料を通して、東京国立博物館の全貌を紹介します。

展示は2部構成で、計150件を展示します。

東京国立博物館にはじめて来館される方には新発見の場として、親しいリピーターの方には再発見の場として、魅力的な展示内容と展覧会場を創出します。

HIGHLIGHTS

史上初! 所蔵する国宝89件すべてを公開!

東京国立博物館が所蔵する国宝89件すべてを展示します(会期中展示替えあり)。これは150年の歴史上はじめての奇跡的なことで、誰も見たことがない、メモリアルイヤーにふさわしい展示が実現します。

明治から令和まで、東博150年の歩みを追体験

東京国立博物館の150年を3期に分け、各時代の収蔵品や関連資料などから、その歩みを紹介します。150年前の湯島聖堂博覧会や帝室博物館時代の展示品による再現展示、かつて展示されていたキリン剥製標本の里帰りなどを通して、当時の人々の驚きや感動を追体験していただきます。

国宝刀剣が集結! 東博に「国宝刀剣の間」出現!

東京国立博物館が所蔵する国宝の刀剣全19件(日本最多!)を、一つの展示室でまとめて展示します。見どころである刃文や地鉄じがねの美をじっくり鑑賞できるようデザインした展示空間、名付けて「国宝刀剣の間」で日本刀の魅力にどっぷり没入してください。

第1部 東京国立博物館の国宝

現在、国宝に指定されている美術工芸品は全国に902件あります。東京国立博物館ではその約1割となる89件を所蔵し、日本最大の国宝コレクションを誇ります。第1部では、この国宝89件すべてを会期中に公開します。

●国宝89件の作品画像のうち、一部は部分掲載をしています。●数字は別紙の「国宝89件一覧」の番号と一致します。●会期中、一部作品の展示替えを行います。作品名、展示期間等の作品情報については、別紙の「国宝89件一覧」をご確認ください。



天台座主僧都法眼和位國師
勅慈雲秀嶺仰別
殊高法水清流酌之
寧盡故天台宗主
少僧都圓珠戒珠
無塵慧炬有照渡
大瀛而求法駟異域
而尋師濟物為宗流
寸攝於普海則他在
吾加斧斤於稠林

任執此為港廿三日
妙法蓮華經方便品第二
小總持善從三昧安詳而起告舍利弗諸佛
智慧甚深無量其智慧門難辨難入一切難
辨難入難知難知所以者何佛曾說此下
千億阿僧祇諸佛盡行諸佛無量諸法勇健
精進名難者聞成就甚深未曾有法隨四
況意難難舍利弗吾從成佛已來種種用
種種種種演說法教元數方便引導眾生
今諸君若以者何如來方便便見波羅蜜
皆已具之舍利弗如來如來深遠無量
一切未曾有法舍利弗如來種種種種分
別巧說諸法善說諸法說可眾心舍利弗要
言之元重元重未曾有法佛成就心舍利
弗不須說說所以者何佛成就第一希有
難解之法唯佛佛乃能宣說諸法實相

妙法蓮華經方便品第二
小總持善從三昧安詳而起告舍利弗諸佛
智慧甚深無量其智慧門難辨難入一切難
辨難入難知難知所以者何佛曾說此下
千億阿僧祇諸佛盡行諸佛無量諸法勇健
精進名難者聞成就甚深未曾有法隨四
況意難難舍利弗吾從成佛已來種種用
種種種種演說法教元數方便引導眾生
今諸君若以者何如來方便便見波羅蜜
皆已具之舍利弗如來如來深遠無量
一切未曾有法舍利弗如來種種種種分
別巧說諸法善說諸法說可眾心舍利弗要
言之元重元重未曾有法佛成就心舍利
弗不須說說所以者何佛成就第一希有
難解之法唯佛佛乃能宣說諸法實相



致合
右歌二十首
古文列
卷之二
卷之三
卷之四
卷之五
卷之六
卷之七
卷之八
卷之九
卷之十

久和歌者我朝之風俗也無不稱頌
千人世物賦人之趣同彼漢家詩章
之有七載然猶時世流香知其體者少
至于以風雅之義當美刺詞先師去
則史記今歌賦以皆歸矣今之所
撰者以明外白之區別欲使時賢之見論
也于時天慶二年冬十月壬午志本撰

古歌體
古歌體
古歌體
古歌體
古歌體
古歌體
古歌體
古歌體
古歌體
古歌體

之人有純其鄰之妻者其長者
他其少者少者報之復其夫死而取其
長者或謂之曰夫非罵者耶曰夫在
欲其報我在我欲其罵人也夫夫令難
知人道者道也曰何患死已而之而
以所為由陽命謀刺賊郭勝等降五
五千餘人論切密封以洗殿故賞不
連武六年日行上者陳八章其一曰
文德二曰廣武三曰備善四曰拓
徵五曰明好惡六曰簡法七曰若
秩八曰極邊境者奏帝將臣見初行
為極長長以罪推大姓令略略是時
略為司空長史說之於尚書命王讓尚書
周主農日行所以求見者數君也讓
等懼之即共排周行遂不得入後衛尉

促席留歡日東隱
坊思歸已終之無如後
蟻行乘月何必進
似雲銀燭思拋揚柳曲
金章潛送石槎襄到
時常晚歸時早笑樂三
分枝一分

集賢池蒼竹中密同
主人晚入皇城宿四
仙酒何所須此月中

左三節并解讀直書之曰
男童女大裝束其指衣裳在前
前之新布三海三海三海三海
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三

從五節并解讀直書之曰
男童女大裝束其指衣裳在前
前之新布三海三海三海三海
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三

從五節并解讀直書之曰
男童女大裝束其指衣裳在前
前之新布三海三海三海三海
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三

從五節并解讀直書之曰
男童女大裝束其指衣裳在前
前之新布三海三海三海三海
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三

從五節并解讀直書之曰
男童女大裝束其指衣裳在前
前之新布三海三海三海三海
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三

從五節并解讀直書之曰
男童女大裝束其指衣裳在前
前之新布三海三海三海三海
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三

王日嗟我友邦家
父母唯人方物之靈
之後已住民父母
天澤穴下民况魚冒
無辜 羣人臣僕
大解脫字師
政出活卓、地脫酒
棧桑棧以毒攻
派別各揮豕風
無出直指人心他
是非知見解會法
或不謂百以異法

大解脫字師
政出活卓、地脫酒
棧桑棧以毒攻
派別各揮豕風
無出直指人心他
是非知見解會法
或不謂百以異法

大解脫字師
政出活卓、地脫酒
棧桑棧以毒攻
派別各揮豕風
無出直指人心他
是非知見解會法
或不謂百以異法

大解脫字師
政出活卓、地脫酒
棧桑棧以毒攻
派別各揮豕風
無出直指人心他
是非知見解會法
或不謂百以異法

大解脫字師
政出活卓、地脫酒
棧桑棧以毒攻
派別各揮豕風
無出直指人心他
是非知見解會法
或不謂百以異法

大解脫字師
政出活卓、地脫酒
棧桑棧以毒攻
派別各揮豕風
無出直指人心他
是非知見解會法
或不謂百以異法

吾相居士不之道
初冬乍寒伏惟
道體之極素陰
所死皆
德死之及也昔中
州遂將古想無不
瞻公蓮禪者得

大解脫字師
政出活卓、地脫酒
棧桑棧以毒攻
派別各揮豕風
無出直指人心他
是非知見解會法
或不謂百以異法

大解脫字師
政出活卓、地脫酒
棧桑棧以毒攻
派別各揮豕風
無出直指人心他
是非知見解會法
或不謂百以異法

大解脫字師
政出活卓、地脫酒
棧桑棧以毒攻
派別各揮豕風
無出直指人心他
是非知見解會法
或不謂百以異法

大解脫字師
政出活卓、地脫酒
棧桑棧以毒攻
派別各揮豕風
無出直指人心他
是非知見解會法
或不謂百以異法

大解脫字師
政出活卓、地脫酒
棧桑棧以毒攻
派別各揮豕風
無出直指人心他
是非知見解會法
或不謂百以異法

張公行杖一首
某郡某縣某鄉某里
若夫考神基於峻
數簞而戎崇堂豈
方騰噴曰之波珠
既乎指天狐而錫
光乎萬弁聲嗣平
豪傑第十三
王大將軍年少時
亦楚武帝喚時賢
人人皆多有所知
色殊惡自言知打
與於坐振袖而起
諧擬神氣豪上儀

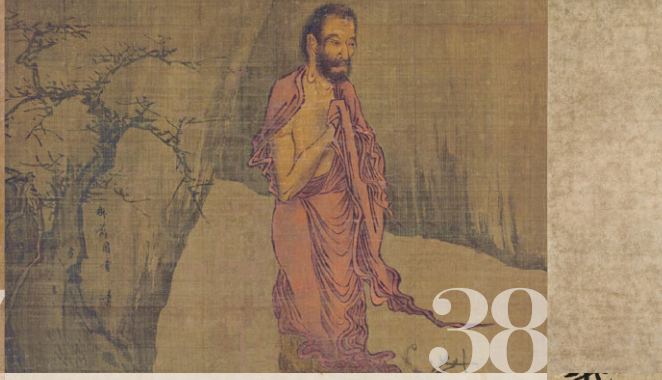
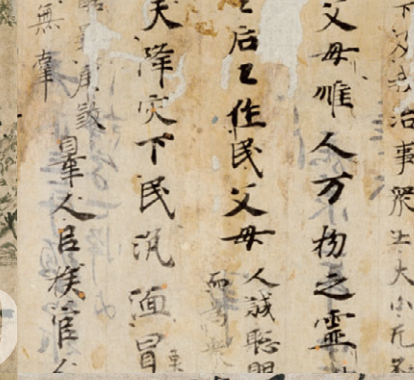
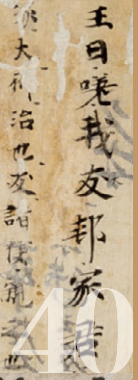
張公行杖一首
某郡某縣某鄉某里
若夫考神基於峻
數簞而戎崇堂豈
方騰噴曰之波珠
既乎指天狐而錫
光乎萬弁聲嗣平
豪傑第十三
王大將軍年少時
亦楚武帝喚時賢
人人皆多有所知
色殊惡自言知打
與於坐振袖而起
諧擬神氣豪上儀

張公行杖一首
某郡某縣某鄉某里
若夫考神基於峻
數簞而戎崇堂豈
方騰噴曰之波珠
既乎指天狐而錫
光乎萬弁聲嗣平
豪傑第十三
王大將軍年少時
亦楚武帝喚時賢
人人皆多有所知
色殊惡自言知打
與於坐振袖而起
諧擬神氣豪上儀

張公行杖一首
某郡某縣某鄉某里
若夫考神基於峻
數簞而戎崇堂豈
方騰噴曰之波珠
既乎指天狐而錫
光乎萬弁聲嗣平
豪傑第十三
王大將軍年少時
亦楚武帝喚時賢
人人皆多有所知
色殊惡自言知打
與於坐振袖而起
諧擬神氣豪上儀

張公行杖一首
某郡某縣某鄉某里
若夫考神基於峻
數簞而戎崇堂豈
方騰噴曰之波珠
既乎指天狐而錫
光乎萬弁聲嗣平
豪傑第十三
王大將軍年少時
亦楚武帝喚時賢
人人皆多有所知
色殊惡自言知打
與於坐振袖而起
諧擬神氣豪上儀

張公行杖一首
某郡某縣某鄉某里
若夫考神基於峻
數簞而戎崇堂豈
方騰噴曰之波珠
既乎指天狐而錫
光乎萬弁聲嗣平
豪傑第十三
王大將軍年少時
亦楚武帝喚時賢
人人皆多有所知
色殊惡自言知打
與於坐振袖而起
諧擬神氣豪上儀





50

海東的藏主訪道
中華編依名尊
宥兩守確然不
挈包相從煩歸
司取滿求修為
道之助因為書
此
至元七年五月十七日
本覺 清獻

萬丈標乘旭
康起未細槐
枝紅誰知錢
姑蘇岬依舊
林識祖風
悔是韜光不
機不犀香裏
衣
交揮耳方龍
信天行直道
休問馬牛風
日本照禪者
欲得教字徑
以述棄贈之
靈堂史 書

范和南手白
日午承天堂
頭長老
暑緬堆
道作安隱
書且知住
荷遠念山
者助良感
道義不謂

46

47

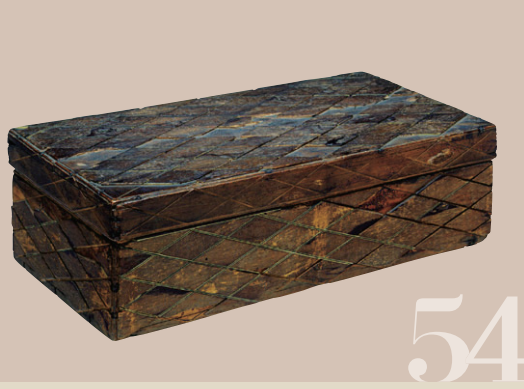
48

奉法隆寺
御前件並是
先帝親弄之
御前件並是
奉法隆寺
御前件並是
先帝親弄之
御前件並是

御前件並是
先帝親弄之
御前件並是
奉法隆寺
御前件並是
先帝親弄之
御前件並是



53



54



55



56



57



58



59



60



61



62



63



64



65



66



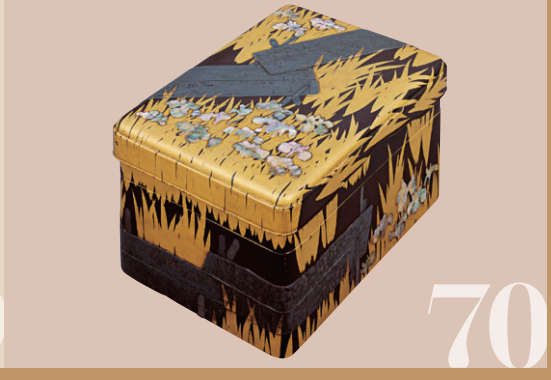
67



68



69



70



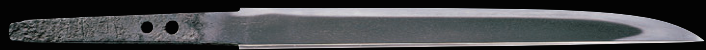
71



73



75



77



79



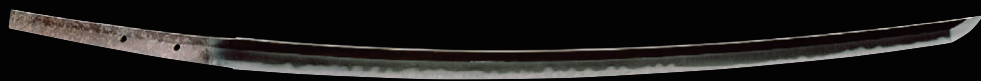
81



83



85



87



89



72



74



76



78



80



82



84



86



88

第1部 東京国立博物館の国宝 [国宝89件一覧]

東京国立博物館創立150年記念 特別展

国宝 東京国立博物館のすべて

No.	分野	作品名 / 作者	制作年代	展示期間			
				10/18~30	11/1~13	11/15~27	11/29~12/11
01	絵画	十六羅漢像	平安・11世紀	●	●	●	●
02	絵画	普賢菩薩像	平安・12世紀				●
03	絵画	孔雀明王像	平安・12世紀	●	●		
04	絵画	虚空蔵菩薩像	平安・12世紀	●	●		
05	絵画	千手観音像	平安・12世紀			●	●
06	絵画	扇面法華経冊子	平安・12世紀			●	●
07	絵画	地獄草紙	平安・12世紀			●	●
08	絵画	餓鬼草紙	平安・12世紀			●	●
09	絵画	平治物語絵巻 六波羅行幸巻	鎌倉・13世紀	●			
10	絵画	一遍聖絵 巻第七 / 法眼円伊筆	鎌倉・正安元年(1299)		●		
11	絵画	竹斎読書図 / 伝周文筆	室町・文安4年(1447)			●	●
12	絵画	破墨山水図 / 雪舟等楊筆	室町・明応4年(1495)			●	●
13	絵画	秋冬山水図 / 雪舟等楊筆	室町・15~16世紀	●	●		
14	絵画	観楓図屏風 / 狩野秀頼筆	室町~安土桃山・16世紀				●
15	絵画	檜図屏風 / 狩野永徳筆	安土桃山・天正18年(1590)		●	●	
16	絵画	松林図屏風 / 長谷川等伯筆	安土桃山・16世紀	●			
17	絵画	花下遊楽図屏風 / 狩野長信筆	江戸・17世紀	●	●		
18	絵画	洛中洛外図屏風(舟木本) / 岩佐又兵衛筆	江戸・17世紀			●	●
19	絵画	納涼図屏風 / 久隅守景筆	江戸・17世紀	●	●		
20	絵画	樓閣山水図屏風 / 池大雅筆	江戸・18世紀			●	●
21	絵画	鷹見泉石像 / 渡辺華山筆	江戸・天保8年(1837)	●	●		
22	書跡	賢愚経残巻(大聖武) / 伝聖武天皇筆	奈良・8世紀	●	●		
23	書跡	法華経方便品(竹生島経)	平安・11世紀			●	●
24	書跡	円珍関係文書	平安および唐・9世紀	●	●	●	●
25	書跡	円珍贈法印大和尚位並智証大師諡号勅書 / 小野道風筆	平安・延長5年(927)	●	●		
26	書跡	白氏詩巻 / 藤原行成筆	平安・寛仁2年(1018)			●	●
27	書跡	群書治要	平安・11世紀	●	●		
28	書跡	秋萩帖 / 伝小野道風筆	平安・11~12世紀			●	●
29	書跡	和歌体十種	平安・11世紀	●	●		
30	書跡	寛平御時后宮歌合 / 伝宗尊親王筆	平安・11世紀			●	●
31	書跡	古今和歌集(元永本)	平安・12世紀	●	●	●	●
32	書跡	元暦校本万葉集	平安・11世紀	●	●		
33	書跡	三宝絵詞	鎌倉・文永10年(1273)			●	●
34	書跡	医心方 / 丹波康頼撰	平安~江戸・12~17世紀	●	●		
35	書跡	延喜式	平安~南北朝・10~14世紀			●	●
36	東洋絵画	瀟湘臥遊図巻 / 李氏筆	南宋・12世紀			●	●
37	東洋絵画	紅白芙蓉図 / 李迪筆	南宋・慶元3年(1197)	●	●		
38	東洋絵画	出山釈迦・雪景山水図 / 梁楷筆、伝梁楷筆	南宋~元・13~14世紀	●	●		
39	東洋絵画	寒山拾得図(禅機図断巻) / 因陀羅筆	元・14世紀			●	●
40	東洋書跡	古文尚書 巻第六	唐・7世紀	●	●		
41	東洋書跡	世説新書 巻第六残巻	唐・7世紀			●	●
42	東洋書跡	王勃集 巻第二十九・三十	唐・7~8世紀	●	●		
43	東洋書跡	碣石調幽蘭第五	唐・7~8世紀			●	●
44	東洋書跡	虎丘紹隆あて印可状(流れ圓悟) / 圓悟克勤筆	北宋・宣和6年(1124)			●	●
45	東洋書跡	無相居士あて尺牘 / 大慧宗杲筆	南宋・12世紀	●	●		

No.	分野	作品名 / 作者	制作年代	展示期間			
				10/18~30	11/1~13	11/15~27	11/29~12/11
46	東洋書跡	聖一国師あて尺牘(板渡しの墨跡) / 無準師範筆	南宋・淳祐2年(1242)	●	●		
47	東洋書跡	照禪者あて偈頌(破れ虚堂) / 虚堂智愚筆	南宋・13世紀			●	●
48	東洋書跡	無隠元晦あて法語 / 馮子振筆	元・14世紀			●	●
49	東洋書跡	的蔵主あて進道語 / 了庵清欲筆	元・至元7年(1341)	●	●		
50	法隆寺献納宝物	聖徳太子絵伝 / 秦致貞筆	平安・延久元年(1069)	●	●	●	●
51	法隆寺献納宝物	法隆寺献物帳	奈良・天平勝宝8年(756)	●	●		
52	法隆寺献納宝物	細字法華経	唐・長寿3年(694)			●	●
53	法隆寺献納宝物	灌頂幡	飛鳥・7世紀	●	●	●	●
54	法隆寺献納宝物	木画経箱	奈良・8世紀	●	●	●	●
55	法隆寺献納宝物	海磯鏡	奈良・8世紀	●	●	●	●
56	法隆寺献納宝物	墨台・水滴、匙	唐または統一新羅もしくは奈良・8世紀	●	●	●	●
57	法隆寺献納宝物	竹厨子	奈良・8世紀	●	●	●	●
58	法隆寺献納宝物	七弦琴	唐・開元12年(724)	●	●	●	●
59	法隆寺献納宝物	竜首水瓶	飛鳥・7世紀	●	●	●	●
60	法隆寺献納宝物	鶴尾形柄香炉	三国または飛鳥・6~7世紀	●	●	●	●
61	考古	扁平鈕式銅鐸	弥生・前2~前1世紀	●	●	●	●
62	考古	東大寺山古墳出土品(金象嵌銘花形飾環頭大刀ほか)	古墳・4世紀	●	●	●	●
63	考古	埴輪 挂甲の武人	古墳・6世紀	●	●	●	●
64	考古	江田船山古墳出土品(金製耳飾ほか)	古墳・5~6世紀	●	●	●	●
65	考古	文祢麻呂墓出土品(瑠璃骨壺ほか)	飛鳥・慶雲4年(707)	●	●	●	●
66	考古	興福寺鎮壇具(瑞花双鳳八花鏡ほか)	奈良および唐・8世紀			●	●
67	漆工	片輪車蒔絵螺鈿手箱	平安・12世紀			●	●
68	漆工	片輪車螺鈿手箱	鎌倉・13世紀	●	●		
69	漆工	舟橋蒔絵硯箱 / 本阿弥光悦作	江戸・17世紀	●	●		
70	漆工	八橋蒔絵螺鈿硯箱 / 尾形光琳作	江戸・18世紀			●	●
71	刀剣	梨地螺鈿金装飾剣	平安・12世紀	●	●	●	●
72	刀剣	太刀 銘 三条(名物 三日月宗近)	平安・10~12世紀	●	●	●	●
73	刀剣	太刀 銘 安綱(名物 童子切安綱)	平安・10~12世紀	●	●	●	●
74	刀剣	太刀 銘 備前国友成造	平安・11~12世紀	●	●	●	●
75	刀剣	太刀 銘 備前国包平作(名物 大包平)	平安・12世紀	●	●	●	●
76	刀剣	太刀 銘 定利	鎌倉・13世紀	●	●	●	●
77	刀剣	短刀 銘 吉光(名物 厚藤四郎)	鎌倉・13世紀	●	●	●	●
78	刀剣	太刀 銘 来国光 嘉暦二年二月日	鎌倉・嘉暦2年(1327)	●	●	●	●
79	刀剣	短刀 銘 行光	鎌倉・14世紀	●	●	●	●
80	刀剣	刀 金象嵌銘 城和泉所持正宗磨上本阿(花押)	鎌倉・14世紀	●	●	●	●
81	刀剣	刀 無銘 正宗(名物 観世正宗)	鎌倉・14世紀	●	●	●	●
82	刀剣	刀 無銘 貞宗(名物 亀甲貞宗)	鎌倉~南北朝・14世紀	●	●	●	●
83	刀剣	群鳥文兵庫鎖太刀 刀身銘 一(上杉太刀)	鎌倉・13世紀	●	●	●	●
84	刀剣	太刀 銘 助真	鎌倉・13世紀	●	●	●	●
85	刀剣	太刀 銘 吉房	鎌倉・13世紀	●	●	●	●
86	刀剣	太刀 銘 吉房(岡田切)	鎌倉・13世紀	●	●	●	●
87	刀剣	太刀 銘 長光	鎌倉・13世紀	●	●	●	●
88	刀剣	太刀 銘 長光(大般若長光)	鎌倉・13世紀	●	●	●	●
89	刀剣	太刀 銘 備前国長船住景光 元亨二年五月日(小龍景光)	鎌倉・元亨2年(1322)	●	●	●	●

※一部の作品は、展示期間中、展示場面を変更します。※展示作品、作品名、作者、制作年代、展示期間等については、今後の諸事情により変更する場合があります。
※すべて東京国立博物館所蔵です。

第2部 東京国立博物館の150年

東京国立博物館は、150年という日本でもっとも長い歴史をもつ博物館です。第2部では明治から令和にいたる博物館150年の歩みを3期に分け、それぞれの時代に収蔵された作品や関連資料を通して東京国立博物館のこれまでと現在、そしてこれからを展望します。

第1章 1872-1885 博物館の誕生

東京国立博物館は、明治5年(1872)に旧湯島聖堂大成殿で開催された博覧会を機に誕生しました。その目的は、博覧会を通して日本の近代化を図ると共に、日本の文化力を国内外に発信すること、そして急激な西欧化で危機的状況にあった文化財を守ることであり、博物館に加え、植物園、動物園、図書館の機能を備えた総合博物館を目指した壮大なものでした。明治15年(1882)、この日本初の近代総合博物館は、上野公園の現在地へ拠点を移し、その活動を本格化させます。



重要文化財

わしおきもの
鷹置物
鈴木長吉作 明治25年(1892)
シカゴ・コロンブス世界博覧会事務局寄贈

明治26年(1893)に米国で開催されたシカゴ万国博覧会に出品された後に当館に入りました。蠟型鑄造を得意とし、輸出工芸品の製作に腕を振るった鈴木長吉の代表作です。



見返り美人図

菱川師宣筆 江戸時代・17世紀

展示期間:10/18(火)~11/13(日)
鮮やかな振袖の美人がふと見返る瞬間を描いています。切手になったことでも有名な作品です。師宣の描く美人は「師宣の美女こそ江戸女」と賞賛され、とても人気でした。



古今珍物集覧 一福高国揮筆 明治5年(1872)

「古今珍物集覧」と湯島聖堂博覧会の再現

湯島聖堂博覧会の様子を描いた「古今珍物集覧」。絵画、書跡、楽器、陶磁器、甲冑、刀剣などの美術工芸品に加え、動植物の標本や剥製など、全国から集められた様々なものが所狭しと並べられています。本展では、実際に展示された作品の一部と共に、もっとも人気だった名古屋城金鯱の実物大レプリカを展示して、当時の雰囲気を再現します。

第2章 1886-1946

皇室と博物館

明治19年(1886)、博物館は宮内省所管となり、3年後に「帝国博物館」、さらに11年後に「東京帝室博物館」と改称されます。国家の文化的象徴、さらには皇室の宝物を守る美の殿堂と位置付けられ、歴史・美術博物館としての性格を強めていきます。この帝室博物館の時代に、関東大震災による本館の損壊と復興、戦争による文化財の疎開という大きな出来事を経験すると共に、収蔵品や調査研究の充実が図られ、現在に続く博物館活動の基礎が築かれました。



当時の天産(自然史)資料のキリン展示の様子。左が「ファンジ」。

天産部と「キリン剥製」里帰り

帝室博物館時代に天産(自然史)資料として展示されていた2頭のキリン剥製標本。実は明治40年(1907)にはじめて生きたまま日本にやってきたキリンです。左がオスで名前は「ファンジ」、右がメスで「グレー」といい、上野動物園で人々の人気を集めました。本展では、現存する「ファンジ」の剥製標本(国立科学博物館蔵)を約100年ぶりに里帰り展示します。



重要文化財

三代目大谷鬼次の江戸兵衛

東洲斎写楽筆
江戸時代・寛政6年(1794)

展示期間:10/18(火)
~11/13(日)

実業家松方幸次郎収集の浮世絵版画(松方コレクション)は、パリの宝石商アンリ・ヴェヴェールの一大コレクションを購入したもので、当館の浮世絵の中核をなしています。



鳳輦 江戸時代・19世紀

皇室と「鳳輦」

鳳輦とは、天皇が行幸の際に座乗される乗物。屋形の屋蓋の上には、鳳凰の像を飾ります。移動の際には、駕輿丁が轎を担いで人力で運びました。この鳳輦は、江戸末期に孝明天皇が新造された内裏(現在の京都御所)に遷幸される際に用いられ、また、明治初年には明治天皇が東京に行幸される際に用いられたものです。

明治5年に創立した日本で最も長い歴史をもつ博物館。その150年の歩みを一部紹介します。

東京国立博物館略年表

明治5 1872	明治6 1873	明治8 1875	明治14 1881	明治15 1882	明治22 1889	明治33 1900	明治42 1909	大正12 1923	大正14 1925	昭和13 1938	昭和16 1941	昭和20 1945
旧湯島聖堂の大成殿で開催した博覧会を機に「文部省博物館」として発足	ウィーン万博参加のため、博覧会事務局に博物館・書籍館が合併し、内山下町(現千代田区内幸町)に移転	内務省所管となる。翌年、陳列区分は、天産、農業山林、工芸、芸術、史伝、教育、法教、陸海軍部の8部門となる	上野公園内にイギリス人建築家コンドル設計の建物(日本館)が竣工し、1階が第2回国勸業博覧会として利用された	旧本館開館をもって上野の現在地に移転	宮内省所管の「帝国博物館」となる	「東京帝室博物館」と改称	大正天皇の御成婚を記念して建てられた表慶館が開館	関東大震災発生。旧本館損壊	天産部(自然史関係)の収蔵品を東京博物館(現在の国立科学博物館)に移管	現在の本館が開館。陳列区分は、絵画、書跡、彫刻、金工、陶磁、漆工、染織、考古に変更	戦争被害を避けるため美術品の疎開が始まる。12月、太平洋戦争開戦	空襲激化のため、3月、観覧を停止。終戦後翌年3月観覧を再開
文部省主催湯島聖堂博覧会を開催した関係者写真	内山下町に移転。山下門内博物館と呼ばれた		日本館		日本館2階彫刻の陳列室	東京帝室博物館の正門(旧寛永寺本坊表門)	完成当時の表慶館	関東大震災での館内の被災状況	完成当時の本館			

第3章 1947-2022

新たな博物館へ

終戦後の昭和22年(1947)、当館は国民の博物館として新たな一步を踏み出しました。そして今日まで、組織の拡充と改編、施設の増改築を重ねつつ、変わることなく文化財の収集保存、展示公開、調査研究に取り組むと共に、最新技術の導入、新たな研究領域の開発、文化財活用の充実など、つねに社会や時代の変化に応じた博物館活動に挑戦しています。今この時も変わることなく変わり続ける新たな博物館、それが東京国立博物館なのです。



重要文化財 遮光器土偶

縄文時代(晩期)・前1000～前400年
青森県つがる市木造亀ヶ岡出土
明治20年(1887)、学界にはじめて紹介されました。この土偶は縄文時代の人々の豊穡や子孫繁栄を願う儀礼や信仰を考える上で重要なものであると共に、当時の造形美を代表するものです。



重要文化財 伝源頼朝坐像

鎌倉時代・13～14世紀
鎌倉幕府を開いた初代将軍・源頼朝として伝わる肖像彫刻です。強ばった装束に身をつつんで正面を見ずえる姿は、武人にふさわしい威厳をたたえています。



重要文化財 風神雷神図屏風 尾形光琳筆 江戸時代・18世紀

展示期間:10/18(火)～11/13(日)
天空を疾走する風神と、雷鳴を轟かせる雷神が視線を交錯させる緻密に計算されたレイアウトです。光琳の斬新なデザイン感覚は、京都の人々にたいへんよこばれました。



重要文化財 夏秋草図屏風 洒井抱一筆 江戸時代・19世紀

展示期間:11/15(火)～12/11(日)
もともと光琳の「風神雷神図」の裏に描かれた作品です。「雷神」の裏に夏草が夕立に打たれ、「風神」には風に吹かれる秋草を描いて、雨風を司る神々に呼应させています。



金剛力士立像 平安時代・12世紀

新収蔵の金剛力士立像を初お披露目

金剛力士は口を開いた阿形と口を閉じた吽形の二対からなる仏教の守護神で、寺院の入り口の門の左右に置かれることが一般的です。この2体はかつて滋賀県の寺院に安置されていましたが、昭和9年(1934)の室戸台風で大破しました。その後、近年の修理をへて、令和3年度、新たに当館の所蔵品に加わり、本展ではじめて公開することになります。

※「キリン剥製標本」以外、すべて東京国立博物館所蔵です。
※本見開きに掲載した作品のうち、期間表記のないものは通期での展示を予定しています。

昭和22 1947	昭和27 1952	昭和39 1964	昭和43 1968	昭和59 1984	平成11 1999	平成13 2001	平成19 2007	平成22 2010	平成23 2011	平成25 2013	平成27 2015	令和2 2020	令和4 2022
「宮内省より文部省に移管。 「国立博物館」と改称	「東京国立博物館」と改称	法隆寺宝物館(旧館)が 収蔵庫兼展示施設として開館 (毎週木曜日、晴天日のみ開館)	文化庁の所管となる。 東洋館が開館	資料館が開館	法隆寺宝物館(新館)開館、 続いて今上陛下の御成婚を 記念して平成館が開館	「独立行政法人国立博物館 東京国立博物館」となる	「独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館」となる	平常展を「総合文化展」へ改称	3月11日、東日本大震災発生。 震災の影響で臨時休館を行い、 3月29日から順次開館	1月2日、東洋館 リニューアルオープン	1月2日、黒田記念館 リニューアルオープン 10月14日、平成館考古展示室 リニューアルオープン	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月27日から臨時休館。6月2日から順次開館。翌年も4月25日から5月31日まで臨時休館	創立150年を迎える



法隆寺宝物館(旧館)



昭和40年(1965)、ツタンカーメン展の行列



法隆寺宝物館(新館)



平成館



東洋館



黒田記念館

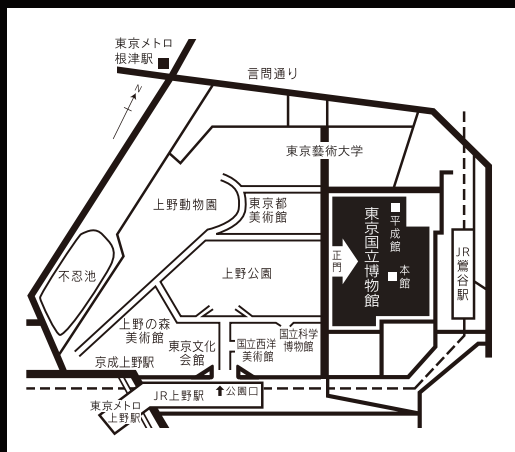




開催概要

展覧会名	東京国立博物館創立150年記念 特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」
会期	令和4年(2022) 10月18日(火)~12月11日(日)
会場	東京国立博物館 平成館
主催	東京国立博物館、毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
協賛	JR東日本、大伸社、大和ハウス工業、横河電機、横河ブリッジホールディングス
展覧会公式サイト	https://tohaku150th.jp/
展覧会公式Twitter	@tohaku150th
お問合せ	050-5541-8600(ハローダイヤル)

※会期中、一部作品の展示替えを行います。※開館時間、休館日、入館方法、観覧料金等の情報は、確定し次第、展覧会公式サイト等でお知らせします。
※展示作品、会期、展示期間、休館日等については、今後の諸事情により変更する場合があります。最新情報は展覧会公式サイト等でご確認ください。



TNM 東京国立博物館 [平成館] TOKYO NATIONAL MUSEUM (Ueno Park)

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

東京国立博物館ウェブサイト <https://www.tnm.jp/>

- JR上野駅公園口・鶯谷駅南口より徒歩10分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線 上野駅、
東京メトロ千代田線根津駅、
京成電鉄京成上野駅より徒歩15分



JAPAN CULTURAL EXPO

令和4年度日本博主催・共催型プロジェクト

心を、うごかさう。
Art Moves Us All.



報道関係お問合せ

東京国立博物館創立150年記念 特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」広報事務局(共同PR内) 担当:三井
TEL:03-6264-2382 E-mail:tnm150-pr@kyodo-pr.co.jp 〒104-0045東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア10階